

2024年度 SYLLABUS 【博士前期課程】

授業科目名：経営哲学特論	
担当教員名：藤沼 司	
<p>授業科目概要：</p> <p>「経営哲学」の英語表記には、例えば① management philosophy、② philosophy of management がある。このことからわかるように、「経営哲学」は多義的である。①「経営者の哲学・理念」のように経営が行われる際の独特のポリシーの意味で用いられることもあるが、②「経営を哲学する」という意味で用いられることもある。ここで「経営を哲学する」とは、経営をめぐって基本的なところから問い直す態度を意味する。②は①を包含する。本授業では、人間とは何か、協働とは何か、組織とは何か、経営・管理とは何かをめぐって、基本的なところから問い直す。そうは言っても、何の手がかりもなしに「経営を哲学する」ことは難しいので、そうした特徴を有するC.I.バーナード『経営者の役割』を題材として取り上げ、履修者自身が経営哲学研究をなしうる素養の涵養に努めたい。</p>	
<p>履修上の留意事項：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本授業では、履修者自身が「経営を哲学する」態度で臨むことを期待する。 ・授業への積極的な参加を期待する。 	
教科書・参考書（参考文献）	
<p>書名：経営者の役割</p> <p>著者／編者：バーナード著、山本・田杉・飯野訳</p> <p>出版社：ダイヤモンド社</p> <p>出版年：1968年</p>	<p>書名：経営学研究方法論</p> <p>著者／編者：山本安次郎</p> <p>出版社：丸善</p> <p>出版年：1975年</p>
<p>書名：管理の哲学</p> <p>著者／編者：村田晴夫</p> <p>出版社：文眞堂</p> <p>出版年：1984年</p>	<p>書名：経営哲学研究序説</p> <p>著者／編者：小笠原英司</p> <p>出版社：文眞堂</p> <p>出版年：2004年</p>
<p>書名：バーナード経営学の展開</p> <p>著者／編者：庭本佳和</p> <p>出版社：文眞堂</p> <p>出版年：2006年</p>	<p>書名：藤沼 司</p> <p>著者／編者：経営学と文明の転換</p> <p>出版社：文眞堂</p> <p>出版年：2015年</p>
<p>評価方法及び判定基準：</p> <p>受講時の態度（積極性の有無）や発言内容（質問、意見等）、学期末レポート等によって総合的に評価する。</p>	
<p>授業目標及び進め方：</p> <p>履修者自身が「経営を哲学する」（経営に関わる既成観念を徹底的に問い直し、「経営」そのものを明らかにする）ことができるようになるのが、最終的な目標である。そのために、担当教員による講義とともに、教科書を履修者各自に分担して報告してもらい、その報告をめぐって議論する、という形で進める。そのことを通じて、自身の「経営哲学」の構想を目指してもらいたい。</p>	

第1回	<p>テーマ：「経営哲学」の概観 内 容：先達が提起した経営哲学体系を鳥瞰する。 教科書／参考書：ノート講義</p>
第2回 ～ 第4回	<p>テーマ：バーナード『経営者の役割』に見る人間観 内 容：経営学に登場する主たる人間観と比較しつつ「人間」について考える。 教科書／参考書：バーナード『経営者の役割』第1・2章</p>
第5回 ～ 第6回	<p>テーマ：バーナード『経営者の役割』に見る協働観 内 容：「人間協働」について考える。 教科書／参考書：バーナード『経営者の役割』第3・4・5章</p>
第7回 ～ 第9回	<p>テーマ：バーナード『経営者の役割』に見る組織観 内 容：人間協働の中核を成す「組織」について考える。 教科書／参考書：バーナード『経営者の役割』第6・7・8・9章 飯野春樹『バーナード研究』文眞堂、1978年。</p>
第10回 ～ 第13回	<p>テーマ：バーナード『経営者の役割』に見る管理（経営）観 内 容：「組織」を機能させる「経営・管理」について考える。 教科書／参考書：バーナード『経営者の役割』第10～18章 飯野春樹『バーナード研究』文眞堂、1978年。</p>
第14回	<p>テーマ：経営学研究の主潮流の概観 内 容：「経営科学」（経営を科学すること）について考える。 教科書／参考書：ノート講義 藤沼 司『経営学と文明の転換』文眞堂、2015年。</p>
第15回	<p>テーマ：「経営哲学」の再考 内 容：経営哲学研究の意義について考える。 教科書／参考書：ノート講義</p>